

## 音声・言語医学研究施設に期待する

大 泉 充 郎\*

永年その実現が待望されていた音声・言語医学研究施設が開設されてから早くも2ヶ年がたち、切替教授、藤村教授、沢島助教授とゆう有力な教授陣を擁して順調な発展を遂げ、茲に研究施設の年報の創刊号を発行するに至ったことは誠に喜ばしい事で、同じく音声を研究し、種々お世話になって来た者の一人として心からお祝いを申し上げます。

“始めに言葉ありき”との古語に示されているように人類の文化は言葉とともに発生し、進んで来たもので、特に音声言語はその発端をなすものとして重要な意義を持っております。従って音声・言語の研究は古くから行なわれておりますが、之に近代科学の光を当てたのは比較的新しくまだ半世紀に満たないように思います。この間、理工学方面からの研究が多く試みられましたが、之等の研究の多くは、その基礎が発声、聴覚、識別など生理学的機構の内にあるため、必要な資料が医学から得られないときは研究は全く不完全なものとなるのは当然でした。音声・言語研究施設では耳鼻咽喉科の世界的権威である切替教授のもとに音声・言語の研究の第一人者で物理学出身の藤村教授が協力しておられるので、その研究成果は丁度境界領域として従来の研究の穴を埋めることになり、大きな期待が持たれる次第です。

私は通信工学出身で、情報理論の電話への応用として先ず狭帯域通信を目指し、clipped speech, vocoder から周波数とレベルの組み合わせによる音声の認識、合成、声帯波、法則による音声の合成の研究へと約15年に亘って研究を続けて来ました。しかし音声の研究は泥沼に足を踏み込んだのに例えられるような極めて困難な仕事である上、私の非力では成果が挙げられないのは寧ろ当然で、誠に恥かしく感じております。この間振り返ってみますと、基礎的なデータが不足のままに目的に急いだ事の一つの原因があり、若し音声・言語医学研究施設のような研究機関がもっと早く開かれ、協力して下さっておればもっとましな成果が得られていたのではないかと残念に思います。

前に述べましたように音声・言語は人類文化の基礎ですから貴研究施設の研究成果の貢献する範囲は音声・言語医学ばかりでなく、社会の凡ゆる方面に及ぶことは勿論ですが、私は工学者、特に情報関係の者として電話を含めて広く情報処理への応用を期待します。最近電子計算機の進歩は極めて著しく従来想像出来なかつたような龐大な情報の処理が之によって行なわれるようになりました。多くの科学、技術、事務は電子計算機を使う事を前提として急速に書き換えられつつあります。音声・言語の研究の方法論も一変したと言

\* 東北大学教授、電気通信研究所

っても過言でないでしょう。その反作用として情報処理システムの側からの音声・言語の研究への期待は頗る大きく、例えば電子計算機への音声入出力が可能になれば電話加入者が電子計算機を直接使うことが可能となり、また言語学の発展により機械翻訳が可能となれば通訳も同時にできるようになり国際交流が促進されるなど情報処理システムの画期的な進歩が期待されます。音声・言語医学研究施設は切替教授以下医学、理学の優れた陣容により音声・言語医学の境界領域を研究することにより音声・言語の研究の盲点を一举に解決して之等の研究の飛躍的な進歩に大きく貢献して下さるものと真剣に期待している次第です。